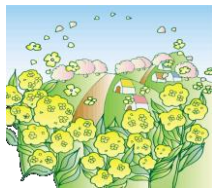




写真にとらず  
自分の目で察しむ

全力で向かい合ふ  
目の前の相手に  
次があるかわからない



日々の生活に麻痺していると見逃してしまうことがたくさんあります。  
家族の大切さや友人の優しさ 先生の関わり・・・

次があるかわからない 目の前の相手に 全力で向き合う  
ことの大切さを忘れてしまいます。

私は特にその傾向にあります。余裕がないときに、必ず陥ります。  
ですから、時々、自分を振り返るようにしています。自分の馬鹿さ加減に気づく振り返りです。笑えます。同じ失敗を何度も繰り返す自分を笑うんです。人から笑われるとカチンときますが、自分で自分のことを笑えるようになるとだいたい乗り切れます。

年齢的にもトップクラスになると職場のみならずあまり意見を言ってくれる人がいなくなります。それは、あまり良い傾向ではありません。ケース会議でも同じです。自分が正しいと思っていますから、新しい今にマッチした または 本人や保護者にとっての考え方の視点変換のマンネリ化が見られるようになると末期的です。そうならないように、この通信を書いています。目の前にいる相手にしっかりと向き合うと考えて、話し合うように心がけたいと思います。

今を大切にしていきます。



花には水、人には愛、教育には心。

[エピソード] 恩師であり、上司でもある校長先生から頂いた言葉です。私はこの言葉がきっかけで、教職の管理職を目指すことになりました。子ども、保護者、教職員の心に響く学校運営を目指すべく、今も心に刻んでいます。兵庫県「アキちゃん」さん

叱り方のコツ⑥ なじるな、ぐちるな、蒸し返すな！

- 人間は愚かなもので、同じ過ちを何回も繰り返すもの。
- 自分もそうなのに、生徒が同じような「ふしだら」を繰り返すと、その非をなじるだけになってしまう。
- ・「二度としないと言ったではないか！」「何回も同じことを注意されるな！」「もう、うんざりだ！」
- 過ぎ去ったことはどうしようもない。過去を蒸し返して、くどくどと叱り、なじるのは、叱る側のムシヤクシヤした気分をぶつけているだけと受け取られる。
- 「叱る」のではなく「怒っている」だけでは、反抗心を助長させるだけである。